

令和4年度

第1回 草津PAと連携した滋賀県南部エリア活性化基本構想策定検討会 会議録

■日時：

令和4年9月5日（月）14時00分～15時50分

■場所：

草津市役所 2階 特大会議室

■出席委員：

岡井委員、奥委員、塩見委員、高橋委員、喜多委員、北村委員、河本委員、野村委員、吉川委員、棚橋委員、大塚委員、松田委員、池田委員（代理）、野田委員（代理）、渡辺委員（代理）、北川委員、松澤委員、木村委員、寺田委員、打田委員、松尾委員

■欠席委員：

平尾委員

■事務局：

建設部 東岡技監、赤田副部長
都市計画部 一浦副部長
都市地域戦略課 寺尾係長、山本主査、山口主任

■傍聴者：

1名

1. 開会

【橋川市長】

お世話になりありがとうございます。

第1回の草津PAと連携した滋賀県南部エリア活性化基本構想策定検討会にあたって、検討委員に御就任いただくとともに、御出席をいただき感謝する。

草津PAが立地するびわこ文化公園都市周辺エリアは、名神高速道路といった広域的な道路ネットワークに加え、都市内に医療・福祉・学術・産業が立地する恵まれた環境である。

当該エリアが滋賀県の新たな玄関口として機能できるよう、これまで滋賀県と草津市などで、活性化構想に向けた研究会を令和元年度から去年まで検討を進めてきた。当該エリアの強みである広域的な道路ネットワークを活かすため、リンク・ノード・マネジメントの視点により滋賀県南部エリアの活性化につながる検討を進めてきた。これを更に具現化してい

くために、これまでの研究会を拡大・強化し、検討会を立ち上げた。関係機関との協力の下、基本構想の策定につなげていきたい。

草津 PA は関西圏では有数の駐車台数を有し、さらなる活性化に向けて、駐車台数や周辺交通も含めた新たな課題整理と対策を必要としている。検討会を通じて新たな展開が生まれることを大いに期待している。それぞれの立場から貴重な意見をいただくとともに、活発な議論をお願いしたい。

2. 委員自己紹介、事務局紹介

事務局より、委員・事務局の紹介。

(市長退出)

配布資料の確認。

3. 会長および副会長の選任について

会場より事務局提案を求める声あり。

事務局が岡井委員を会長に、高橋委員を副会長に推薦し、一同了承。

【会長】

立命館大学に近い草津 PA の周辺をどのように活用していくか検討していく場である。

学生に草津 PA 周辺に行くか聞くと、全く用事がなく行かない人が多く、大学と南草津駅の往復で草津との繋がりがないと声を聞く。多くの学生が通っているのに残念に感じている。

学生は卒業するといなくなるが、第二・第三のふるさととして大学周辺とも関係をもって、何かの機会にまちづくりに参加してもらうケースも想定される。住民はもちろん、来訪してくれる人も見据えて、事業全体をよくしていきたい。

【副会長】

しっかりと務めさせていただく。よろしくをお願いしたい。

会議を公開とする旨の合意がなされた。

(傍聴人入場)

4. 草津 PA と連携した滋賀県南部エリアの活性化にかかるこれまでの取組について

【事務局】

<資料 2 について説明>

【委員】

草津 PA の高度な利用方法ということだが、上下線で場所が離れていることがネックになるのではないか。高速バス事業者のヒアリングにおいてバスターミナル（以下、バスタ）の整備が望ましいとの発言があるが、構造的に大きな改善をすることも含めた検討になるのか。それとも現状をある程度維持する方向になるのか。今後の見通しについて教えていただきたい。

【事務局】

上下線の結節点をどう活用するのかが課題である。ハード整備のみならずソフト面にてカバーできることもあろうかと思う。事業費の面でも実現可能な方策を検討していきたい。

【岡井会長】

高速バスや路線バスの運行はあるものの、既存バス停と草津 PA の間は距離があり、自動車を持っていない人が草津 PA にすぐに行ける状況ではない。検討会の中で、公共交通を新しく整備することも含めて議論するのか。

【事務局】

路線バスは、石山駅・瀬田駅・南草津駅・草津駅から多くの路線が出ている。これらの起終点を合わせることで利便性が高まると考えている。庁内では、地域公共交通網形成計画から地域交通計画に変更する方向で検討を進めている。草津 PA に結節点が必要であるという議論になれば、公共交通分野でもしっかりと位置づけて進めていきたい。検討会では、このエリアの活性化をどのように進めていくのかを重点的に議論いただきたい。

5. 草津 PA と連携した滋賀県南部エリア活性化基本構想の策定方針等について

【事務局】

<資料3について説明>

【委員】

スケジュールがタイトである。バス路線の再編といったキーワードもある。構想の中でどこまで触れておくのか。特にバス路線の再編については、ステークホルダーの合意形成や地域公共交通計画との連動などが必要になる。それを踏まえたうえでこういったスケジュール感で進めようとしているのか。今年度中に想定している合意形成を完了する目標を持っているのか。

需要を予測しながら費用対効果の高いプランを考えなければならないと思っている。KPI（具体的な目標）がないと構想が示せないのではないかと。計画は構想を深度化していくことになる。これまでの研究会の中での議論があったかもしれないが、経緯も含めてもう少し情報を知りたい。

国交省のバスタのガイドライン中にハイウェイバスタの位置づけがあり、それに該当する取組になろうかと思う。バスタのガイドラインでの視点は共有しておくべきで、国内の事例も参考にしながら検討するのも有効である。検討会においても国の動きを共有できると

良い。

【事務局】

今年度、国交省でびわこ文化公園都市周辺における交通拠点の機能強化の必要性について直轄調査を実施していただいている。この調査ともしっかり連携していきたい。このエリアに拠点を設けることによって、どのようなまちづくりができるのか方向性を見出していきたい。また、びわこ文化公園都市の将来ビジョンの見直しを県が検討中であり、草津 PA 周辺の位置づけがどうされるのか、拠点を整備することによりびわこ文化公園都市のにぎわいを創出し、滋賀県の南の玄関口として位置づけられるのかといった調整も必要である。タイトなスケジュールであり、既定路線とするには難しいが、やると決めた以上は、関係機関の協力もいただきながら、スケジュールどおりに進めたい。

国交省の調査結果にもよるが、マルチモードバスタとして駅を中心としたバスタはいくつか事例がある。今回は新たなバスタの取組になると想定しており、ガイドラインにも沿った検討をしたいが、調査の必要性も含めてしっかりと見極めたい。今後の事業化も見据えながら K P I も含めた議論をしたい。

【委員】

この施設を設置することで想定される人の動きの変化や、周辺の交通予測も見せていただければと思う。

6. その他（意見交換）

【委員】

推薦システムや情報提供に関する研究をしている。そのような情報発信の関係での委員の依頼をいただいた。草津 PA が議論の中心となると思うが、訪れたい魅力をどのように発信していくかは課題である。訪れた人に対して、草津市や大津市にどのように人を誘導するか。具体的に貢献できる場所はまだ見えていないが、今後検討したい。

大学の人間として、研究の場としてもこのエリアに興味がある。草津 PA で大学のオープンキャンパスや先端技術の紹介もできるとよい。そこに訪れた人に大学の研究を PRしながら、学生誘致に繋がるとよい。

【委員】

この計画には賛成で期待している。立命館大学に勤務しているが、滋賀医科大学や龍谷大学も立地しているながら横の連携ができておらず、ポテンシャルが発揮できていない。一体となって地域に染み出していくような展開を期待したい。

ポテンシャルがあるとは言いが、ポテンシャルが何なのか具体的に示せていないのではと考えている。企業も大学もあり、高速道路に関連する交通結節機能や JR 在来線にも近い。具体的に何ができるのか、どういった人がどの程度使ってもらえるのか、新しい需要が生まれるのか精査が必要であると考えている。何となくという域を出て具体化していく、他の計画とも連携していくのも重要な視点である。

【副会長】

副会長を受けて良かったのか心配である。何を議論しているのかよく分からない。

エリアが限られた大きさで、議論の中心・実施主体が草津市となれば、予算の都合もあり、何でもできるというわけではない。上位関連計画を見直すといったワードも出ているが、そういった内容をこの場で議論して、滋賀県や大津市に受け止めてもらえるのか。何を議論してどんな結論を出すのか、この会議の目的がよくわからない。もう少し議論のテーマや論点を絞ることが大事ではないか。交通関連事業者や自治会代表の方々にどういった意見を求めているのか、どういった意見が集まればよりよいアウトプットになるのか。ここで議論した内容が空回りしないか不安である。

【会長】

検討会のゴールが曖昧であったようにも思う。このエリアを将来どう活性化していくかがテーマであるが、この場所を知らない人に意見を求めるには、課題からの説明が必要かもしれない。

【事務局】

既存の草津 PA やびわこ文化公園都市をどう活かしていくかということではなく、関係機関の協力もいただきながら、草津 PA の拡張と一体的なまちづくりについて議論したい。今後の資料では論点整理もしていきたい。

【委員】

数年前に草津 PA が一箇所の時代から瀬田からアクセスする便を運行しているが、草津 PA に関連して利用いただけるケースは少ない。まちづくりの中からのどのような需要が生じるか検討して、必要な需要が生じてくれば協力したい。

【委員】

沿線における人流や路線バスを活用した集客拠点ができるのであれば協力したいというスタンスである。今後、山手幹線の延伸ができると需要喚起ができる一方、草津 PA としては新名神が開通した際に交通動線が新名神に移行されるリスクもある。今後の需要喚起については、協力してやっていきたい。

【委員】

滋賀県の南部エリアにどういった課題があつてどの方向に改善したいのかイメージがまだできていない。草津 PA との連携は賛成であり、ネクスコとしても協力したい。国で検討される交通拠点の機能強化の必要性もあるが、市としてどのようなエリアにしていきたいのか議論が必要である。

【委員】

他の会議でもこのエリアには高いポテンシャルがあると言われる。ただし、そのポテンシャルを活かすためのアクションにつながっていない気がしている。こういった会議でそれを具現化していかなければ、活性化はできない。

ビジョンをつくるにあたって、我々に求められる発言がイメージしにくい。どういった

視点からの発言を求めているのかクリアにしていきたい。ステークホルダーとしての発言はしたいと思っている。

【委員】

草津市が対応する意味をしっかりと受け止めねばならない。滋賀県の新たな玄関口とするのであれば、草津市民の要望がおざなりにならないか。そうならないように進めるのが肝要である。草津市だけで対応できないものは国や県とも連携しながら、市民にとっての機能、滋賀県の玄関口との機能の両立が必要ではないか。

【委員】

市民という立場で発言させて頂く。

具現化に向けた取組を進めていただけているのはありがたい。議論の難しさはあるのかもしれないが、着実な取組が進められると思っている。

このエリアにおける地域振興施設によるにぎわいの創出、公共交通の利便性向上には大いに期待している。

滋賀県がびわこ文化公園都市の将来ビジョンの見直しに着手している。今回の検討会の内容をそのビジョンにも反映していただきたい。その逆もしかりで、基本構想とビジョンをしっかり連携していただきたい。

隣接する都市計画道路整備の要望を続けている。構想実現に向けては道路整備も重要な視点であり、県とも役割分担して道路のストック効果が発揮できるように取り組んでいただきたい。

多くの関係機関にも参加いただき、前向きな会議であると理解している。草津市としてもしっかりと前に進めていきたい。草津川跡地のように、新たな組織を作るなど体制を構築しながら取り組んでもらいたい。

【委員】

検討エリアの近くには工場や大学が立地しており、バスタも検討されている。そういった関係者にとってのニーズを見ていく必要がある。もう少し広い範囲での施設立地や機能の過不足についても、今後検討されるのかなと思う。

【委員】

びわこ文化公園都市の将来ビジョンについて、平成24年に策定したものの見直し検討を進めている。周辺エリアに23施設が立地しており、これまでは土地利用を中心に議論してきた。新アリーナの整備をもって、土地利用が一段落する。施設間の連携として、ソフトの取組でエリアの一体化出す方向を考えている。

施設利用者や県民、フリーチケット利用者のアンケートも含めて、交通問題は10年前から指摘される内容である。利用者は不便だから使わない、事業者は需要が無いから運行しないと続いている。滋賀県の交通戦略課が実証実験として、立命館大学と龍谷大学の間のバス運行を行ったこともあったが、なかなか続かないのが実態である。草津市の調査の中で新しい人の流れを作るという意味では期待を持っている。

具体的な形をイメージしやすいように議論を進める必要がある。新名神ができたケースも想定し、草津 PA そのものに魅力的な機能を付与する。観覧車・水族館などを有する施設の事例もある。結節点にプラスアルファの魅力を備え、さらに地域に人が流れるような形にしていきたい。

【委員】

バスタやにぎわい創出、防災拠点といった様々な機能はあるが、誰がターゲットで本当にニーズがあるのか見極めなければならない。市場調査・ニーズを踏まえながら進めていくべきである。

【委員】

整備効果として3つの視点が整理されているが、この先が見えにくい。どのようなまちづくりを進めたいのか検討が必要である。滋賀県としてどのような広域ネットワークが必要なのか整理していきたい。

【委員】

湖南の地域公共交通について、各主体と連携して取組を進めてきたが、コロナの影響もあり、難しい状況が続いている。検討会の結果も見させていただき、連携をしていきたい。

【委員】

びわこ文化公園都市自体は大津市と草津市の市境にあたる。一体的に瀬田や大津、草津の丘陵部、南草津、このあたりがどのように活性化できるのか。その目玉として高速道路も使いながら、県立施設や各大学とも一体での取組を想像しているのかと思う。将来的には事業者応募につなげたいようであるが、市としてのまちづくりの思い、拠点としての位置づけをより強く発信することにより議論が進むかもしれない。

【委員】

滋賀県南部エリアの活性化と表現がされている。今後の議論や市民周知を進めるにあたって、南部エリアの定義を示す必要があるのではないか。草津市内の状況は資料になっているが、検討エリアは大津市にも隣接しており、大津市としても議論が必要であるし、この名称であれば滋賀県にもしっかりと入ってもらわなければならない。

【委員】

基本構想の中でどこまで検討するのかわかりにくいということである。これまでの研究会でどのような施設を整備するのか議論してきた経緯もある。この議論をベースに機能の可能性について議論できないか。

草津市主催の会議であるが、ネクスコや滋賀県の協力も必須になる。役割分担についても、視野に入れて議論を進めたい。

【委員】

経済の側面では、大学や企業の立地もあり、大津市も含めた議論をしていく必要がある。草津市が計画を策定する中でも、大津市や滋賀県との関係性を表現するのが難しいと

思っている。

【委員】

道路状況として、県が整備を続けている山手幹線の開通が控える中、滋賀と京都を結ぶ道路を国や県に要望をしている状況である。道路状況が変化していく中、草津 PA を生かし周辺に車や人を集めてどう発信できるのか、その他の施策との連携も必要である。国や県の事業との連携についても調整が必要である。

【委員】

草津市は滋賀県下の JR 駅利用者数の 1 位と 2 位を占める。その玄関口に加えて、高速道路を利用した玄関口を兼ね備え、滋賀県の南の玄関口としていきたい。

どのような方がどのように利用するのか、そういった調査もしながら、各行政機関がこの場所をどう活用、活性化したいのか具体的に議論を進めていきたい。

【会長】

検討会は、県南部の活性化のために草津 PA 活用の基本構想を策定することがメインである。将来像を検討するうえで、現状や課題について共通の認識を持つことが重要である。

草津 PA の利用状況や周辺の土地利用、道路状況や路線バスの状況に関する現状把握が必要か。路線バスが走っていても草津 PA との位置関係で本当に利用できるのかわからない。現状認識をするための資料作成をお願いしたい。

草津 PA の混雑も聞く。周辺に利用可能な土地がどの程度あるのか。それがなければ、どこまでの議論が可能なのかわかりにくい。

この検討会に参加いただいている方々はこのエリアに何らかの関わりを持つ方である。このエリアに関係する方々が持っている日頃からのお考えを発信いただければと思う。基本構想のレベルなので、自らの組織ができることはもちろん、全体的に思うことや事業者間の連携なども含め、積極的な意見交換をしながら検討を進めたい。

ポテンシャルについてもいろんな人が指摘している。ポテンシャルまでで留まっている理由も重要なポイントかもしれない。そのあたりが分かるような資料をお願いしたい。これまでの研究会での議論にあったのかもしれないが、その場で出た提案事項なども共有いただきながら、市としてのスタンス、委員に求める意見に関してもう少し明確にしていきたい。

7. 閉会

【事務局】

今日頂いた御意見も踏まえながら、整理を進めたい。

【東岡技監】

検討会に参加いただき感謝する。色々と意見やアドバイスをいただけた。いただいた意見を持ち帰って、論点を明確にしながら議論を進めていきたい。調査については、国交省

や滋賀県にも協力を頂いている。国交省ではバスタ関係の必要性や需要に関する調査、県ではびわこ文化公園都市のソフト面での活性化、そのような検討と連携しながら草津市として進めていきたい。今後とも御協力をよろしくお願ひしたい。

以上